九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

平成元年度演習林年報

https://doi.org/10.15017/18583

出版情報：年報（九州大学農学部演習林年報）. 1989, 1991-01-25. 九州大学農学部附属演習林
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

はしがき

われわれ人類は，自然のなかから発生し，自然に適応しつつ，かつその叡知と能力を活かして自然・環境を人間の都合のよいように変えながら，長い歴史を経て今日に至っています。確かに自然・環境は，人間にとってある段階では脅威であったでしょうが，その反面でいろいろな給付をしてくれている豊かな天然資源そのものでもあり，そのような時期の人間の存在は，自然への寄生的存在でしかなかったのであります。

しかし，人口の急激な増大により，局地的に人口過密地が出現してくると，そこに住む人間は自然の見直し，あるいは自然への回帰の希求が強くなり始めるのであります。このような動きが地球規模になってきた現在では，自然・環境の保護への関心が非常に高まっているのもある意味では当然でありましょう。したがってわれわれは現在の自然・環境を少なくとも維持し，出来得れば改善して，住みよいものを次の世代へ引き継ぐべきであると思われます。

このように考えるとき，10月2，3日宇都宮で開催された全国演習林協議会において緊急議題として提案された，国内各地に所在する各演習林を利用しての酸性雨の観測問題は，まことに時機を得たものと思われますとともに，演習林という組織自体の存在意義を高め強調するものと思われます。

九州大学演習林は，広く林学・林産学に関する教育・研究への寄与を目指しておりますが，これをもう一歩すすめて森林科学への貢献を目指して，地球社会，人類全体への寄与を考えるべきだと思います。今後とも関係各位の一層の努力を期待するものであります。

1990年11月

演習林長　関屋雄偉